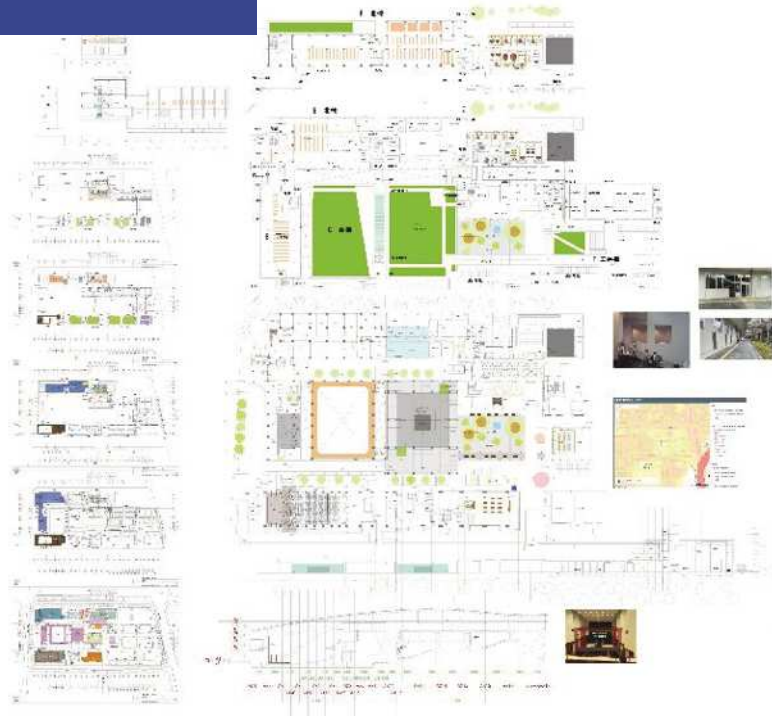




教員特別研究(その他研究)成果報告書

配分研究費:1,061千円

静岡文化芸術大学両学部・両研究科が連携できる研究・教育環境の研究

目的・概要

本研究は、本学の研究・教育環境のうち両学部の連携的な活動が想定されるギャラリー、自由創造工房、文化・芸術研究センター、講堂などにおける空間やコンテンツの環境の調査と改善提案を行い、両学部の創造的な連携活動を誘発しようとするものである。

研究・教育環境を空間の機能と学術資料ストックの視点から良好化し、教員の利用率を上げて、両学部・両研究科の連携や融合を誘発することを目的とする。

期間

令和5年4月1日～令和7年3月31日

研究担当者

デザイン学部	デザイン学科	教授	磯村 克郎(研究代表者)
文化政策学部	国際文化学科	教授	西田 かほる
文化政策学部	芸術文化学科	教授	永井 聡子
デザイン学部	デザイン学科	准教授	百束 朋浩
デザイン学部	デザイン学科	教授	中野 民雄

スケジュール

令和5年4月～10月	教員ヒアリング、施設予約状況、イベントの実施状況の調査
令和5年11月～12月 令和6年1月～3月	書類の収納状況の調査 文化芸術研究センター、自由創造工房の音響特性調査
令和6年4月～10月	対象施設の現場調査 施設機能のゾーニング検討
令和6年11月～令和7年3月	環境整備提案対象の図面制作 環境整備提案対象のCG制作

研究成果

R5年度では、対象施設を活用している教員へのヒアリング、施設の予約状況、イベントの実施状況、書類の収納状況など現状の把握を行い、以下のような視点を設定した。

- 1.各対象施設では、設定された機能に加え、両学部教員がさまざまな工夫により、イベントや演習に活用しているが、それらの工夫に基づいて音響的な改善や空間の改装を行えば、より使い勝手が良くなり活用の機会増加が可能になる。
- 2.デザイン学部の演習課題の合評会時期には、各施設に予約が集中し、会場不足となる一方、施設の種類や時期による管理がワンストップでないため、ユーザー(学生や教員)の使い勝手を改善する必要がある。
- 3.馬込川の氾濫水位は、本学敷地で1m程度の予測があり、湿気の問題もあって、図書館(1F)や収蔵庫のペーパーへの防災が大きな課題である。
- 4.遠州学林構想では、学寮機能や研究所のための新棟や西側駐車場の広場化が提案されているが、文化芸術研究センターや既存施設を活用すれば、同様の意図でコンパクトな環境が可能である。

R6年度では、上記の視点を各フロアに展開して、広場化した中庭を囲む演習展開ゾーン、図書館(1F)と3Fの入れ替えゾーン、文化芸術研究センターと2,3,5階施設の連携による遠州学林ゾーンなどの配置計画と個々の施設の改装計画を行い、図面と3DCGを制作した。



今後の研究成果の還元方法

本学研究紀要に、研究の調査報告および計画提案をまとめ、研究メンバーで執筆する。
施設利用委員会に、図面や3DCGにまとめた環境整備提案を報告し、今後の本学の施設利用のあり方を提案する。